

3. 将来の農地利用のあり方

取組事項	対応
担い手に集積・集約化する	○
担い手の分散錯圖を解消する	
新規参入を促進して、新規参入者に集積・集約化する	
耕作放棄地を解消する	
その他[右欄に自由に記載]	

4. 3についての農地中間管理機構の活用方針

取組事項	対応
地域の農地所有者は、原則として農地中間管理機構に貸し付ける	
農業をリタイア・経営転換する人は、原則として農地中間管理機構に貸し付ける	○
担い手の分散錯圖を解消するため利用権を交換しようとする人は、原則として農地中間管理機構に貸し付ける	
その他[右欄に自由に記載]	

5. 近い将来農地の出し手となる者と農地 〔国、都道府県に報告する場合は、農業者名を記載しますが、集落・地域で使用する場合は匿名とすることができます。〕

近い将来農地の出し手となる農業者 (氏名)	年齢	現状 〔平成29年度〕		計画 〔平成31年度〕		利用しなくなる 農地面積	農地中間管理機構への貸付け希望の有無	
		経営内容 (作目)	経営規模の合計 (ha、頭数等)	経営内容 (作目)	経営規模の合計 (ha、頭数等)		農地面積	貸付時期
J	33 才	水稻	0.02 ha		0.00 ha	0.15 ha		
K	68 才	—	0.00 ha		0.00 ha	0.27 ha		
L	69 才	—	0.00 ha		0.00 ha	0.15 ha		
M	45 才	—	0.00 ha		0.00 ha	0.07 ha		

※ 筆ごとの具体的な貸付等の計画がある場合は、「別紙：近い将来農地の出し手となる者の農地」に記載します。

6. 今後の地域農業のあり方

今後の地域農業のあり方(地域の中心となる経営体とそれ以外の農業者を含めて)		
取組事項	対応	コメント
生産品目の明確化		<土地利用型農家・前坂協同農事組合> 1. 規模縮小する農家から農地を借り受ける。
複 合 化		2. 農地を集積し、低コスト化を図る。
6 次 産 業 化	○	<肥育農家> 1. 神戸ビーフとなる牛の割合を高め、高付加価値化を目指す。
高 付 加 価 値 化	○	<山崎 大地> 1. 新規就農者であり、肥育牛の頭数を年度ごとに増やし、市場出荷を目指す。
新 規 就 農 の 促 進	○	<柘田 翔太> 1. 将来的には、もち米及び黒豆を使用した6次産業化にも取り組む。
そ の 他 []	○	<東野 豊> 1. 認定新規就農者であり、農地を集積し規模拡大を目指す。 2. 将来的には、6次産業化にも取り組む。